

情報産業労働組合連合会

中央執行委員長 野田三七生様

「愛の基金」助成決定を受けて

この度は私どもの活動に対し助成をいただくことができまして、大変感激しております。本当にありがとうございます。

今年度はここ数年行ってきた震災復興支援活動に加え、絵本の自費出版も行い、資金が全く枯渇しておりました。理事からの追加徴収も含め打てるだけの手は打っていたのですが、震災後6年となると次々と助成金は打ち切られ、それでも例年行っている活動はみなさんが待っていてくれると思うと取りやめるわけにも行かず、実施せざるを得ませんでした。また絵本についても政宗生誕450年、宇和島藩誕生400年という節目にあたり、この機を逃してはということになり、全て自費にて出版致しました。

こんな状況ながら、開催したイベントや絵本には熱い関心が多数寄せられ、マスコミにもたくさん取り上げられて対応に追われている有様でした。これも「今年で最後だね」とスタッフと語り合っていた時に「愛の基金」の助成決定をお聞きし、みんなで思わず歓声を上げたのでした。「これで年がこせる！」本当にそう思いました。

復興住宅が立ち並び、昔の「ふるさと」は消えてしまいましたが、これからも子どもたちに先人が紡いで来た地域の歴史を様々な形で伝えていきたいと考えています。

「郷土愛」はふるさとをよく知ることから始まります。それには子どもたち始め、住民の方々に「情報」を効果的に伝えるツールが必要です。私達が行ってきた「古地図」や「地域検定」そして「絵本」などは楽しみながら学べる情報ツールとしてとても有効です。老若男女が一堂に集う「縁日」、そしてハレの日の「料理」は世代間交流の場としては欠かせません。

「愛の基金」のお陰で来年度も何とか活動できる目度がありました。また、宮城のどこかでふるさとの絵本をつくり、楽しく学べる現代の「縁日」を開催したいと思います。

本当にありがとうございました。

特定非営利活動法人 生涯学習実践塾
理事長 水戸 正美

伊達家がゆかり 宮城と愛媛「二つの名取」 震災から始まった交流を絵本に

東日本大震災で被災した宮城県名取市と、愛媛県伊方町名取地区の歴史的なつながりを題材にした絵本「海を渡った多賀丸ーふたつの名取の物語」を名取市のNPO法人が自費出版した。仙台藩祖伊達政宗生誕450年の今年、伊達家ゆかりの愛媛県と震災をきっかけに始まった交流を、さらに深めている。

出版したのは、「生涯学習実践塾」。理事長の水戸正美さん（73）＝名取市＝が原作、理事で絵本専門士の阿部弘子さん（60）＝宮城県柴田町＝が原画を担当した。

A4判カラーで、10月に3000部作製した。名取市関上小と下増田小の全児童計約850人に配ったほか、伊方町の小学生や名取地区の住民にも届けた。在庫はほとんどないという。

地名の由来を巡って伊方町名取地区には、政宗の長男で宇和島藩初代藩主伊達秀宗の入国（1615年）の際、同行した軍夫が仙台藩の名取郡出身で軍馬の飼育と警護のため定住したとの伝承がある。

絵本ではこの説を基に、名取郡の少年と名馬「多賀丸」が入国に同行し、嵐が迫る宇和島で少年が多賀丸を無事避難させるという物語を描いた。絵は手描きの線を残した柔らかいタッチで、各ページには本文に加え、関連する歴史の解説を載せた。

震災後、伊方町名取地区の住民は「本家が大変」と名取市に義援金や寄せ書きを送った。その後も、住民が互いに訪問するなど交流を続ける。

阿部さんは「震災で名取地区の人たちの温かい気持ちを知ることができた。絵本で恩返ししたかった」と語る。水戸さんは「名取市の子どもたちには、ぜひ名取地区とのつながりを知ってほしい」と話す。



自費出版した絵本を眺める水戸さん（左）と阿部さん

拡大写真

◎絵本「海を渡った多賀丸」◎一場面



「海を渡った多賀丸」の一場面。多賀丸は、仙台藩の船で、江戸時代の名馬・多賀丸とともに仙台藩内から現在の伊方町に移り住んだ男の子が主人公で、嵐から馬を守る姿を描いた。

ふたつの名取の物語
海を渡った多賀丸

愛媛

江戸期の伝承題材 NPO制作

東日本大震災で被害を受けた宮城県名取市と、同市を支援した伊方町名取地区。同じ「名取」の名前で結びついた縁を題材にした絵本が自費出版された。而地域では、住民同士の交流が続いていて、名取市のNPO法人が「二つの名取の絆をつないでいきたい。震災の支援のお礼をしたい」と絵本を制作した。

二つの名取 絆の絵本

宮城

絵本は「海を渡った多賀丸」ふたつの名取の物語。江戸時代に名馬・多賀丸とともに仙台藩内から現在の伊方町に移り住んだ男の子が主人公で、嵐から馬を守る姿を描いた。

1615年、仙台藩主伊達政宗の長男秀宗が宇和島に入り、宇和島伊達家の初代藩主となった。仙台藩が



伊方町教育委員会の河野達司教育長（左）に絵本を手渡す宇和島信用金庫の村尾明弘理事長（右）伊方町

絵本を制作したのは名取市のNPO法人「生涯学習実践塾」。約400年前に伊方に移住した馬夫は、今回津波被害を受けた地域に住んでいたとされるという。

絵本はA4判カラーで28

が、実践塾の水戸正美理事長（78）が話を作り、絵は理事の阿部弘子さん（60）が描いた。名取地区のカラー写

「被災支援 お礼の気持ち」

真も掲載し、3千部を出版。名取市関上地区の2小学校に配った。

水戸さんや阿部さんは絵本を作った理由を「地域の歴史を子どもたちに伝えるのには絵本が良い。二つの名取地区の絆をしっかりとつないでいきたい。震災での支援のお礼の気持ちも込めた」と話す。

伊方町役場では13日、絵本の贈呈式があり、仲介した宇和島信用金庫の村尾明弘理事長が町教育委員会の河野達司教育長に手渡した。町内の小中学校の児童・生徒約600人に贈られる。名取地区の住民にも絵本が届けられた。郷土史に関心がある木村公志さん（66）は「地区に口伝で残る歴史をもとに表現してくれて感激した。約400年前からのつながりを、伊方町と宮城の子どもたちに知ってもらいたい」と期待を込めた。（佐藤英法）

ひかりの実たわわ

いている。青色や赤色、緑色

り、今年で4回目。アーテイストの高橋匡太さんが手がけた。袋には地元の小中学生らがデザインした笑

地区と学校連携 防災訓練に30人



吹き出しの訓練をする生徒ら。愛南町御荘平城体育館に移り、町の防災担当者が避難所設置などについて説明した。吹き出し訓練もした。

玉浦だよ！全員集合Ⅲのひとこま

岩沼市玉浦コミュニティセンター
2017.7.8 (土)



用意万端整いました！



開場前から小学生が受付に並びます！



地域検定がそろそろ始まります。



超難問揃い！丁寧に説明しますが・・・



食改さんも腕によりをかけて・・・



古地図の説明には真剣な面持ちで・・・



鉄砲隊・矢野目足軽、始まり始まり！



本物の火縄銃の登場です！バアーン！



若い人たちもお茶のおいしさを堪能！



初出演「早股神楽保存会」獅子舞です



コーラスいきいき！息、ぴったり！



ハーモニカ愛好会！ステキなハーモニー



第3代玉浦マイスターは成績抜群でした



あちこちから「おかわり！」の声が！



暑い中でも縁日にはたくさんの人たちが！



一間ごとにていねいに説明・・・でも？（地域検定）



大人顔負けの高得点の争いでした。（地域検定）



実方と清少納言の恋花、さて行く末は・・・（音楽絵本）



ぐらぐらゆれるタワーに苦戦！（かんづめタワー）



小さな子が意外と積めます！（かんづめタワー）



わたあめとヨーヨーどっちにする？（縁日コーナー）

ミニミニ地域検定 名取市南部篇

2017.7.15 館腰公民館



超難問に真剣に取り組む子どもたち（地域検定）



ハレの授賞式、得意満面の笑顔（地域検定）



幅広い世代のみなさんが続々来場！（お茶コーナー）



知っているようで知らなかった地域のこと（古地図）



おばあさんにこのハガキ、届け！（タラヨウの葉教室）



かき氷と射的が大人気！（縁日コーナー）